

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム 静園 (ユニット 静園)
所在地 (県・市町村名)	長崎県南島原市口之津町乙3476
記入者名 (管理者)	平 淑美
記入日	平成 21 年 1 月 15 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理念に基づく月々の目標を作成し、スタッフの実践に取り組む
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		お世話になっている近隣の人などに手作りの作品などを送り、日常的に気軽につき合える様に努めている
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町の行事等には参加しているが、町のために貢献出来ているとは言い難い		地域の方々を招くような取り組みを行い、その暮らしに支援できることがあれば努める
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員に書いてもらい、運営者と管理者が個別に意見交換の時間を設け、一年間の振り返りとスタッフの意見を組み込んだ施設運営に取り組んでいる		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度よりスタッフにも会議に参加してもらい、現場の声と会議へのスタッフの理解をより深められるように配慮している		昨年より継続的に参加して頂いてる、地区の会長や家族代表の方からは地域の情報や意見などを積極的に発言して頂けるようになり、入居者様のサービス向上に活かされている
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主催の勉強会には積極的に参加している。町の福祉担当者とも話し合いの機会を設け、お互いの意見交換を行いながら、質の向上に努めている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会等でスタッフの学ぶ機会は持たれている。ホームにおいては現時点で必要性のあらわれる関係者がおられず、活用・支援までには至っていない		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ全員が学ぶ機会を大切にし、お互いが注意しながら防止に努めている		年間を通じて勉強会を継続し、ホーム全体で統一した、虐待・拘束に対する意識・配慮なども考え努めていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は、施設長・主任・事務長・介護支援専門員の四人で、それぞれの担当部分を入居者様はもちろん、御家族にも十分説明を行っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホームに意見箱を設置し、いつでも外部の方から意見を聞ける体制を設けている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>一ヶ月に一度、家族へのお手紙を通じて入居者様の健康状態や通院の記録など、担当スタッフが責任を持って報告を行っている。金銭管理については、事務長が御家族が来園時に随時報告を行っている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱のみではなく、御家族が来園時には主任やスタッフと話し合いの機会を設け、御家族の意向を聞き、入居者様の意志を尊重したケアのあり方・支援に努めている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度のフロアー会議・全体会議を通じてスタッフの意見や提案を聞く機会を設けている。意見が出しやすいように議長・書記を毎回、スタッフの中より交代で行っている</p>		<p>運営者・管理者のみが発言しないように工夫は行っているが、スタッフ全員が自ら率先して提案・意見を述べるまでには至っていない。若いスタッフも発言できるような会議の進め方が今後の課題である</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の突然の変化には、主任を中心にスタッフとの連携は取れている。勤務調整には毎月の20日までに休暇希望をスタッフより出して頂き、無理のない勤務調整に努めている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者に不安を与えないよう配慮し、異動は必要最小限に努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム独自の勉強会を行っている。GHケア研究会や、社福主催の研修会については掲示、声かけなどを行い、スタッフのスキルアップに努めるように配慮している		管理者、スタッフの段階に応じてホーム側から研修を受講してもらう場合、研修の成果をホーム勉強会において発表してもらい、スタッフの学ぶ機会に活かしている
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日々の勤務体制のなかでは、他の同業者とゆっくりと交流を図る時間が取りづらく、サービスの質を向上させるための話し合いを行うことは難しい		GHケア研究会の呼びかけ、職員同士の意見交換、交流の輪が広がるようなグル-プワーク中心の勉強会も今後、検討する
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休暇希望やスタッフの異動等には配慮する様に努めている		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格等を目指し、研修等に行くときはホームとして出来る限りの配慮・支援に努めている		認知症や介護の現場に必要な本を継続的に購入しながら、スタッフのモチベーションが下がらないようにも努めている
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	スタッフ各自が担当を決め、自覚と責任ある対応に努めている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に話し合いを十分に行い、入居されてから後も主任・スタッフが家族の意見や希望を聴きながら、入居者の安心と安全に努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のニーズを見極め、今できる最善の支援をスタッフで話し合い対応に努めている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬように馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	馴染みの家具や、日用品は個人が以前から使用されていた物を持ってきて頂き、入居者の安全とニーズを家族と話し合いながら、徐々に環境にも馴染んでいけるような工夫を行っている		入居され、少し環境にも慣れてこられたときを見計らって歓迎会を開き、他の入居者ともスムーズに馴染めるような配慮を行っている
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の出来ることを見極め、できる限りは手伝って頂き、逆に昔の知らない事などは訪ね、教えて頂いたりもしている		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	月に一度の手紙で入居者の体調やホームでの様子をお伝えし、来園時には色々とお話も弾んでいる		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事や誕生会などには家族にお知らせを行い参加を呼びかけている。入居者が買い物などに行きたいと言われるときは、無理にならない程度に家族にも声かけなどを行っている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで通い慣れたショッピングセンターや美容室、お寺などには入居者の希望に出来る限り添えるような支援を行っている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の席や、お風呂の順番などもスタッフが間に入り、孤立感や入居者間の輪が崩れないような努力と、一人一人の意見を尊重したケアに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>病院や、地域でお会いしたときは挨拶を交わすなど関係を断ち切らない様に努めている</p>		<p>母体がお寺の施設ということもあり、お盆やお正月はお参りなども行い、つきあいを大切にしている</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の尊厳と自己決定をスタッフ間で共有し、出来る限り意向に添える支援に努めている</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>時間のある時などに、記録物等で情報を得ながら把握に努めている。今年度は入居者一人一人を見つめ直すために、改めて生活歴や本人のニーズを担当スタッフがシートにまとめ、日々のケアに活かしている</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>生活・受診の記録、申し送りノート等で、スタッフが総合的に把握出来るように努めている</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>カンファレンスを定期的に行い、入居者一人一人の課題を話し合いながら介護計画を作成し、チームで連携したケアを行っている</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>責任者のみで介護計画を作成するのではなく、必要に応じて本人、家族、介護スタッフと話し合いを行い、現状でもっとも最適な介護計画を作成できるように努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化があれば特記事項・申し送りノートに記録するなどして、毎日の記録・情報の共有化を図っている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体となるお寺への参拝、同法人の保育園児とのふれ合いや、町の活動として行っているボースカウトや空手の子供達が、行事やお正月の準備などには協力して頂いている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員のホーム視察などには積極的に協力をを行っている。文化祭やお祭りには作品を出展させたり、町で行方不明者が出たとき、警察や消防団と協力しながら捜索するなど地域貢献にも努めている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者本人の意向や必要性に応じて、病院などの相談窓口などと話し合う機会を設けている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターの方に、運営推進会議終了後などに時間を取って頂き、アドバイスや必要性について検討や問題点を指摘して頂き、いつでも協働できる体制に努めている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望に応じたかかりつけ医への受診を行っている。急変時には、いつでも往診して頂ける関係を築いている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門の医師ではないが、スタッフが困った時などは、いつでも時間を掛けて相談できるような主治医との関係は築けている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師1名、准看護師2名が常勤している。スタッフとの連携を図りながら、日常の健康管理や医療活用の支援に努めている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	看護師が病院関係者と連携をとりながら、入院時・退院後も安心できるスムーズな対応に努めている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族には重度化や終末期における話し合いは、入所時より行っている。かかりつけ医との繰り返しの話し合いはなされてはいるが、本人の意向・医師・家族・スタッフの全員が方針を共有しているとは言い難い		かかりつけ医との更なる連携、スタッフの重度化・終末期に対する介護のレベル向上、夜間時の緊急対応に対する不安解消への勉強会。本人・家族の意志を尊重しながら方針を共有できるまでのチームケアのあり方を考える
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームの「出来ること・出来ないこと」への見極めは、スタッフ一人一人と話し合いながら取り組んでいる。変化に伴う段階的な話し合いは、医師・家族・ホームスタッフとで検討を行いながら、現時点での最善の支援に取り組んでいる		病院との併設ではないので、医療との更なる連携強化に努める
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	病院・居所等に移られ際、ケア関係者と何度も連絡を取り、必要ならば居所等を訪問し、十分な情報交換を行いながら、本人の不安をなるべく与えない配慮に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録等の個人情報の取り扱いには特に配慮を行い、一人一人の尊厳を損なわない接し方や言葉遣いにも配慮している</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人に応じた声かけ等を行い、メリハリのある生活が出来るようにコミュニケーションを図りながら支援している</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人のペースを大切にしたいと思いつつも、スタッフの都合を優先する場面がある。しかし、その時にはスタッフ同士で話し合いながら、出来る限り希望に寄り添えるように心掛け努力している</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の意向で行きつけの美容室やショッピングセンターなどには行かれています。おしゃれや身だしなみには、スタッフも気を配りながらお気に入りの服や帽子などを外出時には着て頂くように心掛けています</p>	<p>以前、ボランティアでエステの方に来て頂いた時は好評だったので、今後も地域の方々への協力をお願いしていく</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎日の食事準備や後かたづけを押しつけにならない程度に協力してもらっている。作る喜びや、出来る喜びを感じて頂き、スタッフも感謝の言葉を述べるなど、一緒に行う喜びを感じて頂けるように努めている</p>	<p>インスタントラーメンを食べたいと入居者のリクエストを聞き、メニューに取り入れた所とても喜ばれた。今後は、一ヶ月に1～2度、お昼だけでも、一品を入居者選択メニューなどにして、食事の楽しみ方の工夫を考えたい</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>買い物やおやつ等については、本人の体調に合わせ、好きな物を希望で買って頂けるように支援している</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者の排泄パターンをスタッフ間で把握し、誘導などを行っている。入居者の状態に応じオムツ等を使用している		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	勤務体制上、時間帯は決まっているが希望があれば夜間時の入浴を行えるように努めている。入居者の気分や状態に十分配慮を行い、本人の意志を尊重しながら支援を行っている。		仲の良い人同士での入浴、`お父さんを先に入れて欲しい`など、入居者の気持ちには十分配慮を行っている
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の状態に応じて支援を行っている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節に合わせた作品作りや、文化祭に向けた出展作品を作成するなど、一人一人に協力してもらいながら、毎日を楽しんで頂くような支援に努めている		敬老会では、お品書きを作成して頂いたり、あいさつをお願いするなど、今後も、役割の中から楽しみに繋がるような支援を心掛ける
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意志を尊重しながら、トラブルがないように配慮し、一人一人が状況に応じた金銭管理が出来るように配慮している		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に添った外出等、スタッフで話し合いながら外出の機会を作っている。お墓参りに行きたいなどの希望があれば、出来る限りは希望に添えるように努めている		地域のマップ情報誌を作成し、身障者用トイレがどの場所に設置されているのかを書き込むなどをして、どのタイミングでトイレ休憩などを行えるかを把握できるように作成する
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人・家族の希望があれば、出来る限りは希望に添えるよう準備、支援を行っている		高齢者なので難しいと思うのではなく、本人が希望されるならば、家族と連携をとりながら、どうすれば実現できるか、可能性を話し合う

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話が出来るよう、ホーム内に公衆電話を設置するなどして配慮している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの方が訪問されたときには、本人の希望を聞き、お部屋に椅子やお茶などを準備し、出来る限りは馴染みの人たちだけでゆっくりくつろいで頂けるよう心掛けている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等で説明や取り組みについて話し合いを行い、スタッフ全員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる		虐待・拘束については継続的に勉強会を行い、スタッフのレベル向上に努める
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはブザーが付いてあり、入居者が外に出られたり、来客などがあつた場合は分かるようになっている。スタッフが出入りするときは必ず声をかけ合いながら安全には常に心掛けている		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーには特に気を配りながら、スタッフ同士の声かけを中心にしたケアに努めている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険を防ぐために、保管場所や管理方法には注意をはらい、昼夜を通じて安全面には努めている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれのマニュアルを作成し、対応できるように努めている。火災等の危険箇所は点検リストを作成し、一日2度の点検を実施している。もし転倒・事故などが起こつた場合は、ノートに記載し、その都度スタッフ間で話し合いを行い防止に努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会の中で、心肺蘇生や消防署への通報練習等の訓練を定期的に行っている。消防署から来て頂き、定期的な実施指導も行っている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	勉強会や防火訓練の中において、夜間時の対応方法や火災だけではなく、地震や津波などの天災についても話し合い等を行い、スタッフの意識向上に努めている		地域との連携については、立地的に難しい面(近隣の住宅が少ない)もあり、課題としている
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の状況に応じて家族には説明を行っている。必要性がある購入物に対しては、本人と家族に十分説明を行いながら検討を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常勤看護師による、体調チェックや健康相談等を行い、異常の早期発見に努めている。また、必要に応じ、かかりつけ医への相談等おこなっている。スタッフも何か変化があった場合、常時報告をおこなうようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の状況に応じ、管理方法の検討をスタッフかんで話し合い対応している。また、マニュアルを作成し、的確な支援と確認(必ず処方箋と確認し、トリプルチェック)を行い、事故等のないようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日々の排便状況が分かるように、記録されている。出来る限り自然排便を促すかたちではあるが、便秘傾向の方などは、主治医へ相談のもと緩下剤等の内服コントロールも行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアに関しての勉強会を行い清潔保持の必要性をスタッフ全員が理解している。毎食後のうがい、歯磨きができたか、記録出来るようにしている。また、状況に応じ歯科による相談、往診も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量等バランスがとれているか、毎回記録しスタッフ全員が把握出来るようにしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルを作成し、定期的に感染面での勉強会等を開催している。また、よりの確な対応が出来るよう、スタッフにも外部の研修会に参加するよう呼びかけをおこなっている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルがあり、毎食手作りの食事をその都度提供している。食材もより新鮮なものを使用するようにし、毎週冷蔵庫内を確認するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、入居者に生けて頂いた花を飾ったり、スタッフが家から持ってきた季節の花を置いたり、明るく安心できる空間づくりをスタッフと入居者で工夫している		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、入居者の集合写真や作品を飾っている。季節感を感じて頂けるような作品と一緒に作成しながら、メダカやスタッフが見つけた面白い飾り物などを置き、居心地の良い空間に心掛けている		今年は門松や、しめ縄なども手作りで作成しました。今後も、入居者とスタッフとが一緒に考え、色々な新しい物にもチャレンジしていく
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろぎ空間として和室にソファを置いたりして工夫はしてみるが、実際には本人の椅子が落ち着かれるのか、利用するまでには至っていない。気の合う入居者同士、席の配慮などは行っている		くつろぎ空間・癒し空間を入居者と一緒に試行錯誤しながら、出来れば昔の家を思い出させてくれるような回想部屋の空間を目指したい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生け花が好きな方は部屋に花を飾ってみたり、思い出の写真や、それぞれの使い慣れた好みの物を自由に置かれ、各々が居心地よく過ごされるように安全面だけ配慮しながら工夫している		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめに換気を行い、入居者の状態に応じた温度調整に心掛けている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物等は生活空間にはなるべく置かないように心掛け、一人ひとりに応じた声かけや、寄り添う支援を心掛けている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	コミュニケーションを図りながら、本人の意思を尊重した支援を心掛けている		スタッフ個々が専門的な技術や知識を深め、より本人や家族が安心できる環境作りに努める
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りには季節の花や、入居者が贈り物として頂かれた花を植え直し楽しんで頂いている		プランタンや気軽に植え込みの出来る様な場所を検討中

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

母体がお寺で保育園があることより、地域の人や子供達と関わりやすい環境である。早くより、いのち、そのものを見つめたケアのあり方にスタッフと共に取り組んできた。眼下には青い海が広がり、沈みゆく絶景の夕日を望みながら、穏やかな時間がゆっくり過ぎていく。スタッフの殆どが3年以上の経験を持ちながら、現状に甘んじることなく個々のスキルアップのため努力をしている。事業所自体も、スタッフの研修への取り組みには特に力をいれている。いのちの尊さを大切にするという精神面だけの配慮ではなく、豊かな経験と、個々の確かな介護技術の向上により、安心の中に、お互いを認め合う信頼関係、入居者はもちろん、スタッフも生き活きと生活を共有できるホームのあり方が静園の魅力である。